

開催地名	香川県多度津町
開催日時	令和5年12月23日（土） 10:00～12:00
開催場所	多度津町地域交流センター
語り部	竹原 茂 （広島県三原市）
参加者	多度津町消防団、自主防災組織、民生委員、多度津町社会福祉協議会 47名
開催経緯	本町では、地域住民の防災意識の向上を図るため、自主防災組織の代表者等との情報提供や意見交換等を行う連絡会を継続して開催することで、自主防災組織との連携強化に取組み、防災体制の整備が進んでいるものの、大規模災害等の経験がないことから、今後の活動の参考となるよう、災害の実体験を直接聞く機会を設けることとした。
内容	市民の命と暮らしを守るために ～あなたにとって防災とは～ （１）平成30年7月豪雨災害の三原市の被害について 2014年8月6日に防災士13人が自分たちの町は自分たちで守ろう！と、三原市防災士会を発足した。三原市は昔、海であった場所を干拓や埋め立てられてできた地域であり、ハザードマップからも「想定最大浸水区域」「津波想定浸水深」「液状化現象区域」であることが分かる。平成30年7月の豪雨災害時には、国道2号線の交通がストップし、尾道の木原地区などは土砂災害の影響で建物がえぐられてしまった。県内各地では避難指示（緊急）が出るまでに21名が亡くなった。避難警告を重く受け止めず、自身の自宅がそもそも土砂災害区域である事すらも知らない住民が多かった。ハザードマップをただ配布し、閲覧するよう喚起するだけでは、あまり効力が見られない。実際に理解してもらい、対策を立てる事が重要である。避難指示が出た段階で直ぐに行動に移し避難できるとは限らない。また警戒レベル4は実際に浸水や暴風が発生している段階に近く、少しでも早くに避難しなければならない。そのため常日頃から地域と行政で連携し、どのように地域間での繋がりを構築し、避難訓練等の事前準備の重要性を住民に浸透させるかが今後の課題である。住民ももっと自発的に今後の対策を家族や隣人と話し合い、日ごろから危機感を持つことが大切である。私は、今後も三原市危機管理課へ積極的に防災意識について働きかけ、防災活動を続けていく。 （２）三原市防災ネットワーク 防災士ネットワークをはじめとして、13の団体が参加し、それぞれ特長ある活動をしている。例えば、避難所でどういう食材が使われているか、ピクトグラムで表示できるようにしており、三原市のイベント等でも可視化できるようにして、誰でも安心して食べられる様に三原市と連携をとりながら推進している。また、地域のTV局やFMラジオも市内各地の被災状況を共有し、情報をリアルタイムに発信している。他に防災マップ作りなどを行い、その防災マップをごみステーションなど主要施設に掲げることで、た

くさんの目に触れさせることにより、周知を促すきっかけにもなるよう工夫している。防災訓練を様々な機会で開催し、市民の方々に情報を発信し、体験してもらっている。その他、様々な活動を通して市民に災害について考える機会を与えて身を守る為の知識を持ち、情報を如何に活用するかという事を知ってもらう活動をしている。

(3) 避難所運営について

常日頃から、行政だけに頼らず、自分で1次避難場所を探しておく事が大切である。誰と、どこを通過して、どうやって避難するのか、などを実際にシミュレーションすることも大事なことである。時期、時間によって刻々と変化する為、色々なパターンを想定する事が必要である。また避難所では女性目線でのキメ細やかな運営が大切と感じることが多いため、運営には女性に参画してもらう必要がある。食事管理などの衛生面での問題を解決するためには、心配りができる女性の力が必要不可欠であるためだ。また、長期になると、心のケアができる方(心療内科医師等)の存在も必要になってくる。災害備蓄に関して避難所の食物アレルギー対応も見落とされがちだが命に関わる事なので重要である。

(4) まとめ

常日頃から災害について地域や行政と連携をし、市民自身も関心を持ち、防災力を高めておく必要がある。全員で協力して助け合いながら市民の命と暮らしを守る地域を皆さんで作っていただきたい。そして、他団体と連携が取れ一緒に活動できるよう、それぞれの団体の良さを理解しながら無理をせず少しずつ連携団体を増やしていくことが大切である。



開催地より

地域の防災・減災に対する意識の向上や防災力の強化を実施してきた、三原市防災ネットワークの取組について、経験談を交え分かりやすく講演していただいた。本町では、本日の講演をふまえ、自主防災組織の自助・共助の強化と防災力の向上に取組みたいと思う。